

[2011年度 第1回]

法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科入学試験問題
外国人・小論文

問題

以下の資料を読み、設問に答えよ。

[資料1]:

経済連携協定(EPA)に基く最初のインドネシア人の看護師候補者〔資料2〕に詳細)が壁に直面している。候補者は母国での実務経験もあるが、土台となる日本語の習熟というハードルに加え、両国間の看護教育の微妙な違いや、保険制度の相違などもネックとなっているようだ。日本語学習も国家試験対策も受け入れ施設に委ねられており、病院側も手探りの状態。候補者らの支援団体は、「系統だって教育する枠組みが必要」と指摘している。

「ジドウ、ジドウ……」「児童虐待ね」。奈良東病院(奈良県天理市)で研修を受けるインドネシア人看護師候補生のハリアント・ジョハンさん(25)とジュマリさん(34)。看護師国家試験の模擬問題文の読み上げにつかえると、看護主任の今西豊香さん(37)が静かに正した。

同病院は2月、インドネシアとのEPAに基づき来日した看護師2人を受け入れた。2人は日本語学習に加え、看護師国家試験突破に向けて猛勉強中だ。同病院の場合、月曜は午後の4時間、火曜から金曜は同2時間を試験勉強や日本語教育に充てる。指導は同病院の管理職の看護師ら7人が担当。「毎回10~15問の模擬問題を読解も含め宿題で出すが、答えが合う回数も増えてきた」と今西さん。

同病院は「将来、人口が減少し人材難に直面する」(岡田行幸事務長、36)との危機感から、国の政策に先立つ2006年から、試行的にフィリピン人看護師を留学生として受け入れた実績がある。

その経験を生かし今春から試験的に、インドネシア人看護師候補生向けにeラーニング(ネットを使った遠隔教育)を導入。臨床研修に重きを置くために、日本語学校への通学負担軽減などを図るのが目的だ。受講内容には医療や介護の現場で使う言葉などを盛り込んだ。各地の施設で研修する候補生同士がパソコン画面上で顔を合わせられる仕組みもあるという。

ただ、受け入れ後の教育は各施設にほぼ任されており、手探り状態の施設も多い。

インドネシア人看護師候補者1人を受け入れたさくら病院(愛知県大口町)の場合、当初は看護の専門教育を中心に指導したが、病名や症状など漢字の読み取りでつまずいた。現在は日本語の教育中心にシフトしている。

難しいのが教材選び。日本の昔話の本は「文化の違いが大きく理解しづらかった」と竹

山富佐子教育担当部長（63）。新聞記事を繰り返し読み書きしたり、職員との日常会話を日本語で書き出したりと「どんな方法がいいのか色々変えている」のが現状だ。

同病院で研修中のディアンさん（28）は、「大きな病院で働いてキャリアアップしたい」と、夫と3歳の娘を残して来日。「（患者が）早口や口ごもるとわかりにくい。何度も聞いてわかるようにする」と謙遜するが、患者の評判はよい。竹山さんは「方言交じりの患者の話、時間をかけて聞き取る。話を聞いてもらうだけで喜ぶ患者もいる」と評価する。

ただ、患者とコミュニケーションはとれても国家試験の読解力は別。「困っているのは日本語だけ。特に漢字」という。

看護師候補者は母国で看護師の資格を取り実務経験があるが、受けてきた教育内容は「詰め込み型の日本とは違うようだ」と竹山さん。

あるときディアンさんが、「患者が手が痛いと言っている」と看護師に報告した。「手のどこ？」と看護師が聞き返すと「手です」。患者に確認し、痛む場所が前腕部だとようやく分かった。日本の看護教育では上腕、前腕、手と分けて把握するよう教わるが、本国では教わった覚えがないと話す。「どんな教育を受けてきたのか分かれると教え方も変わってくるのだが…」と竹山さんは打ち明ける。

教育だけでなく2国間の制度の違いも大きい。例えば、介護保険制度などは日本独自の制度。国家試験にも出題されるが、「（高齢者の介護予防や相談窓口などがある）『地域包括支援センター』などは概念から説明しないと分からない」と奈良東病院の岡田事務長。ジュマリさんらは「保険制度に関することなど、（文章としては）読めても理解できないことがある」と漏らす。

岡田事務長は「国家試験のハードルは高すぎる。語学と臨床研修を並行するなら7年かかるのでは」とした上で、「どういう勉強をすれば効率がいいのか、国も現場も手探りの状況」と話す。

こうした中、病院の支援に手を挙げるボランティア組織などが現れた。「関西インドネシア友好協会」（事務局・兵庫県芦屋市）は4月から本格的に、同県西宮市や川西市など3カ所の医療機関にメンバーがボランティアで出向き、インドネシア人看護師候補生らに日本語研修を行う。

川西市の病院のホームページでインドネシア人候補生の受け入れを知った杉原貞二部会長（58）らが病院側に呼びかけ、勉強会が実現。月1回、候補生ら6人が集い、日本語のレベルを確認し合うなど交流機会も設けている。

また、「日本インドネシア経済協力事業協会」（東京・千代田）も、インドネシア語を話せる職員を各受け入れ施設に派遣、学習状況などを聞き取り調査している。希望する施設には小中学校の教員経験者らで構成する「地域支援員」も派遣、日本語教育の底上げを図っている。

医療、大学関係者らで作る支援組織「ガルーダ・サポーターズ」（事務局、東京・足立）の本多敏子共同代表は日本語を習得させ、国家試験に合格するまでの全体の枠組みがない

ことがこの制度の問題」と指摘する。一方、「頑張れば不可能ではない目標」とも話す。同組織では今後、モデルとなるような研修のガイドラインを提案することを検討中だ。

[資料2]:

外国人看護師候補者 日本はインドネシア、フィリピンと、人の移動や投資などの経済活動の自由化を進める「経済連携協定 (E P A)」を締結。これに基づき候補者が順次来日している。候補者は3年間で3回まで国家試験を受験可能で、合格すれば日本国内で⑤就労を続けられる。それまでは病院や施設で日本人と同等の給与で働きながら、日本語や看護の勉強をする。

(出所) 日本経済新聞 2009年9月27日(朝刊)の記事より、一部修正し引用。

問1: 本文に表記された、以下の漢字の読み方を、ひらがなで記せ。

- ① 連携
- ② 看護
- ③ 虐待
- ④ 謙遜
- ⑤ 就労

問2: この記事に付ける適切な見出しを、15文字以内で示せ。

問3: 看護師候補者の学習において、ネックとなる原因として、日本語の習熟以外に、2つの事例が記されている。これらの2つの事例を、具体例を含めてそれぞれ50文字以内で示せ。

問4: 看護師候補受け入れ施設を支援する新しい取組みが始まっていることが2件記されている。2件の取組みをそれぞれ50文字以内で示せ。

問5: 経済連携協定 (E P A) に基づく看護師受け入れが円滑に実施されるために、どのような改善または取組み方法が考えられるか、あなたの考えを200文字以内で述べよ。

以上

[2011年度 第2回]

法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科入学試験問題

外国人・小論文

[問題]

以下の資料を読み、設問に答えよ。

[資料]

日本のソフトウェア産業の真の強さは、ユーザーの業務①、さらにはその背後にある意図にまで踏み込み、それに適合するソフトウェア、システムを開発することであると考えられる。事例研究が示唆するのは、そうした「擦り合わせ」を下支えする能力、人事システムが現在の日本のソフトウェア産業にはあり、それは過去に培った企業能力、日本企業の経営スタイルと連続性を有している、(A)ということであろう。したがって、今後の日本のソフトウェア産業に求められることは、収益性②のみを高めること、それを可能にする案件③の獲得ではないだろう。むしろ、業務とその背後の意図にまで踏み込み、一緒に考えて効果的なシステムを構築することに価値を見出すクライアント企業を開拓し、そうしたクライアント企業を増やしていくことであろう。換言すれば、クライアント企業と1つの組織になる「クライアント企業の組織化」を推し進め、ベンダー企業とクライアント企業が一体となった公式組織を成立・存続させられるような関係、ネットワークの構築を行うことであろう。もちろん、それを現実のソフトウェア、システムに結実させる開発能力の向上、人材育成④を不断に進めることも必要であろう。

このように考えれば、日本のソフトウェア産業が目指すべきは、収益性などの目先の、表立った指標を高める方向—アメリカなどの企業が目指している方向—ではないと考えられる。むしろ、日本のクライアント企業とともに培ってきたソフトウェア開発能力、クライアント企業とのリッチ・コミュニケーション(B)の能力を、さらに高めることが、望ましい発展の方向性なのではないだろうか。それは、品質と、クライアント企業の要求への柔軟性を高く維持し、IT社会の「黒子」に徹していくソフトウェア産業の姿であるとも言える。

(中略)

本書が提示した経営スタイルの革新⑤は、システムを利用するユーザー、クライアント企業、さらにはソフトウェア産業の他企業を巻き込み、産業全体が変わった場合にこそ、意味を持つであろう。とくにクライアント企業との関係において、これまでのコミュニケーションを改めて見直し、双方が持つ認識や情報の差を埋め、信頼関係を構築していく必要があるだろう。本書は、そのための青写真を描いたに過ぎないのである。したがって、本書で描いたソフトウェア企業、ソフトウェア産業のあり方を、具体的にどのような取組みで現

実のものにしていくかは、実務家、研究者が今後取り組んでいくべき課題であると考えられる。それが実現したときこそ、ソフトウェア産業が本当の意味で、ITによって企業、社会を支える黒子となれるのではないだろうか。

(出所) 尾高煌之助・松島茂他編『イノベーションの創出』有斐閣。一部、字句を修正。

問1 下線部①から⑤の漢字の読み方を、ひらがなで示せ。

- ① 業務
- ② 収益性
- ③ 案件
- ④ 人材育成
- ⑤ 革新

問2

下線部A「それは過去に培った企業能力、日本企業の経営スタイルと連続性を有している。」とはどういう意味か、100字以内で述べよ。

問3

下線部B「リッチ・コミュニケーション」の意味を資料に即して100字以内で説明せよ。

問4

資料の指摘する日本のソフトウェア産業の優れた点は、どのようなことか、200字以内で述べよ。

問5

資料は、日本のソフトウェア産業は国際的に弱いという通説に対し、相対的に強い部分を指摘し、今後の目指す方向を示している。あなたは、この資料の議論に関し、どのように考えるか、400字以内で述べよ。

【2011年度 第3回】

法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科入学試験問題
外国人・小論文

問題

以下の資料を読み、設問に答えよ。

[資料] :

(1) イノベーションとは未来の創造である。したがって、自分がこの先どうありたいか、どう世界を変えていきたいかといった未来創造のビジョンが、イノベーションには不可欠である。

例えば米IBMの「Smarter Planet (地球をより賢くスマートに)」や、米ゼネラル・エレクトリック(GE)の「Ecomagination (エコマジネーション)」には、この先、彼らがどのように世界を変えていきたいか、そしてどんな方向へと変わっていかなければならないかが示されている。そうしたビジョンにより、組織の内外に存在する知を総動員して有機的に結合し、矛盾を総合して新たな知を創り出すように組織のメンバーは動機づけられ、方向づけられるのである。

全社レベルのビジョンにしる、製品・サービスレベルのコンセプトにしる、こうした未来創造のビジョンは、未来から現在を考えるのであって、現在の延長としての未来を考えるものではない。たとえ一見実現不可能なようでも、自分の強い思いをこめ、他者が共感できる未来のイメージを描き、その未来を実現するために今自分がしなければならないことを考えれば、それまで誰も考えつかなかった未来を実現できる。ビジョンもなく現状の改善に懸命なだけでは、未来の創造はできない。挑戦的なビジョンを掲げることで人は限界を超え、新たな知を創造するのである。

さらに、そうしたビジョンには、自らが社会にどのような「善」を提供できるかという社会的な視点が不可欠である。スティーブ・ジョブズ氏は、米アップルはテクノロジーとリベラルアーツの接点に立つ会社だと語り、良い製品を通して世の中に良い文化を広げていこうという思いでモノを創っているという。そうした「善」のビジョンが企業に存在意義を与え、企業を成長させていくのである。

ビジョンは、トップが組織の内外に向かってそれを繰り返し語り、血肉化する取り組みを行って初めて意味を持つ。重要なのは、トップ自ら、経営哲学とビジョンを全身全霊で語り続け、一貫してやりぬくことである。さらに、それを全世界に向けて積極的に発信することである。日本にも高いビジョンを掲げる企業はあるが、それを世界的視野で自社の存在意義として語れる日本企業のトップは少ない。レトリック能力を磨き、世界をあっといわせる概念や物語で、自社が創造する未来を世界を相手に熱く語っていくことが、トップには求められているのである。

イノベーションは、理論から論理分析で「正しい」答えを導き出す⑥演繹では起こらない。あくまで個別具体の現実から出発し、間違っているかもしれないが新しい理論を打ち立てようとする⑥帰納的飛躍から始まるのである。

しかし、ただ現実を見るだけでは、その事象にとらわれてしまい、現実からの飛躍を可能にするような未来創造のビジョンは創れない。そこで必要となるのが、第一に、思い込みを捨てて現実をあるがままに凝視し、その背後にある文脈の意味、つまり関係性の本質をつかみ取る⑥直観力と、第二に、その本質に基づいて様々な関係性をどう変えていけば思い描く未来が創造できるのかを考える構想力、さらに第三に、⑥不確かな未来に対してリスクを取る勇気である。

例えば、ヤマト運輸（現ヤマトホールディングス）の「宅急便」の③ビジネスモデルは、小倉昌男氏がニューヨークを訪問した際、四つ角のそれぞれに米物流大手、UPSの配送車が止まっているのを見て、緊密な配送網の存在意義を直観したことから生まれた。「小口荷物は効率が悪くもうからない」という当時の運輸業の常識を捨てて素直に現実を直視し、その意味を深く考えたことが、「小口荷物でもすぐに確実に届けてくれる」というコトに対する顧客のニーズと、それを可能にする配送網の仕組みという新たなビジネスモデルの気づきへとつながったのである。

この例に限らず、見過ごしてしまえばどうということのない現実から大きな飛躍を⑥導くヒントを得たという事例がイノベーションには多い。創造とは一回性の中に普遍を見ることだという。日常の環境や他者との平凡なやりとりの中に潜在する小さなコトから、大きな変化の可能性に気づくことが重要なのだ。

そうした「見えないものを見る」鋭い⑥洞察力は、見ようとする強い目的意識と、専門的知識の背景にある豊かな経験と教養によって形成される。多くの発見や発明は、経験から得た深く多様な暗黙知とビジョン達成への強い思いを持って、常に考え抜き、新たな関係性を見いだすことから生まれる。さらに気づきの本質を他者にわかりやすい言葉に概念化し、伝えていく能力も重要だ。組織の内外の人を動かして知を総動員し、さらに顧客の心を動かさなければ、革新は起こらない。コトを言葉や物語にし、さらにモノへと結実していく能力が実践知のリーダーには必要なのである。

(出典) 野中郁次郎、「知識経営とイノベーション」, 日本経済新聞 やさしい経済学 (4)気づきからの飛躍 (2011年1月7日)

(5)五感で感じる「場」(2011年1月10日) より作成

問1：下線部分の漢字の部分の読み方を、ひらがなで記せ。(2点×10)

- ① 創造
- ② 不可欠
- ③ 矛盾
- ④ 掲げる
- ⑤ 演繹
- ⑥ 帰納
- ⑦ 直観
- ⑧ 不確か
- ⑨ 導く
- ⑩ 洞察

問2：資料の中で出てくる以下の言葉の意味(定義)を、80字以内で記述せよ。(8点×3)

- (1) イノベーション
- (2) ビジョン
- (3) ビジネスモデル

問3：「未来創造のビジョン」とは、どのようにして創り、どのようにして実現するのか？

資料の記述を活用して、120字以内で説明せよ。(15点)

問4：資料では、「ビジョンには、自らが社会にどのような「善」を提供できるかという社会的な視点が不可欠である」と言っているが、それはどういうことか？

資料の記述を参考にして、あなたの考えを120字以内で述べよ。(15点)

問5：資料の後半では、「イノベーションは、論理分析では起こらない。帰納的飛躍から始まる」と言っているが、どのようにしてイノベーションを発想し、実現していくのか？

資料の事例も活用して、300字以内で説明せよ。(26点)

以上